

| | | |
|-------------|---|--|
| 年間目標 | (※年間目標の記述は I 期より継続)→ | |
| 期 (月) | (9月・10月・11月・12月) | IV期(1月・2月・3月) |
| ね ら い | <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな行事に参加し遊びを通して、人とのかかわりを楽しみ、参加する楽しさを知る。 ○いろいろな場面で自分の思いを言葉で伝える。 ○ごっこ遊びや集団遊びを通して友達と遊ぶことを楽しむ。 ○季節の変化を感じながら、元気に遊ぶ。 ○お祈りすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な習慣が身につく、自分でできることが増えていく。 ○興味のあることに意欲的に取り組む。 ○友達といっしょに遊ぶ中で、友達とのつながりが深まっていく。 ○自我の形成が進み自分のしたいこと、してほしいことがはっきりしてくる。 ○異年齢児とのかかわりが深まっていき、進級することに期待を持つ。 ○月ごとの聖句を暗唱し、発表することができる。 |
| 内 容 | <ul style="list-style-type: none"> ○季節の変わり目の健康状態の把握に努め、体調の変化には適切に対処する。 ○暑い寒いを感じて自分で衣服の調節ができるように促したり、見守ったり、さり気ない援助を行ないながら自立心をはぐくむ。 ○季節の変化に気づき自然に親しむ。 ○気の合う友達といっしょにごっこ遊びを十分楽しめるようにする。遊びが見つからない子どもに対しては好きな遊びが見つけれられるようにいっしょに「楽しいね」という気持ちを共有しながら他児とのかかわりを持てるように配慮する。 ○保育者もいっしょに全身や手指を使って遊びを楽しみ興味あること、経験したことをいろんな方法で表現して遊べるようにする。 ○絵本の内容のおもしろさがわかってきて好きな場面や簡単なストーリーを追いながら見立て遊びを楽しむ。 ○「できた」ことを優先させるのではなく、「やりたい」という意欲を認め励まし自信につなげていく。 ○お友達と声を合わせてお祈りをする機会を与える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○生活の流れがわかり簡単な決まりがわかってくる、と自分でできることが増えてお手伝いを喜ぶ。 ○生活に必要な経験の中から子どもひとりひとりの意欲を認め、満足感や達成感が味わえるようにする。 ○「ジブンデ」という気持ちや思いを譲れないことも多いが保育者が仲立ちとなって相手の気持ちに気づいていけるよう葛藤している気持ちをしっかり受け止め、気持ちの整理ができるように援助する。 ○いろいろな方法でごっこ遊びやつもり遊びを楽しみ言葉を自由につかって遊べるようにする。 ○全身を使って十分に遊べるように活動範囲を広げ、安全の配慮を行なう。 ○簡単なルールのある遊びを通して友達と遊ぶことが楽しいとわかるように場面づくりを楽しみながら順番を「待つこと」などができるように知らせていくようにする。 ○異年齢児とのふれあいの機会を持つことで小さい人へはいたわりの気持ちを、大きい人へはあこがれの気持ちが持てるように、みんなと安心して遊べる環境や雰囲気大切に整えていく。 ○朝の会、帰りの会でみんなの前で暗唱聖句をする。 |